

観察と記録

第1日目 10月7日(水)

社会福祉法人聖隷福祉事業団

浜松市生活自立相談支援センター つながり

上原 久

《後期研修の共通テーマ》

「対象者のニーズをどう支援するか」「本人とどう向き合うか」

《1日目のテーマ》

相談支援を実施する上での
基本的・基礎的な支援姿勢及び支援手法を学ぶ

《この單元では...》

- 「観察」or「記録」というものを改めて考える
- 「事実」には、客観的...と主観的...がある
- 観察した情報は、取捨選択して記録する
- 何を観察or記録するかは、面接技術に影響される。

事例

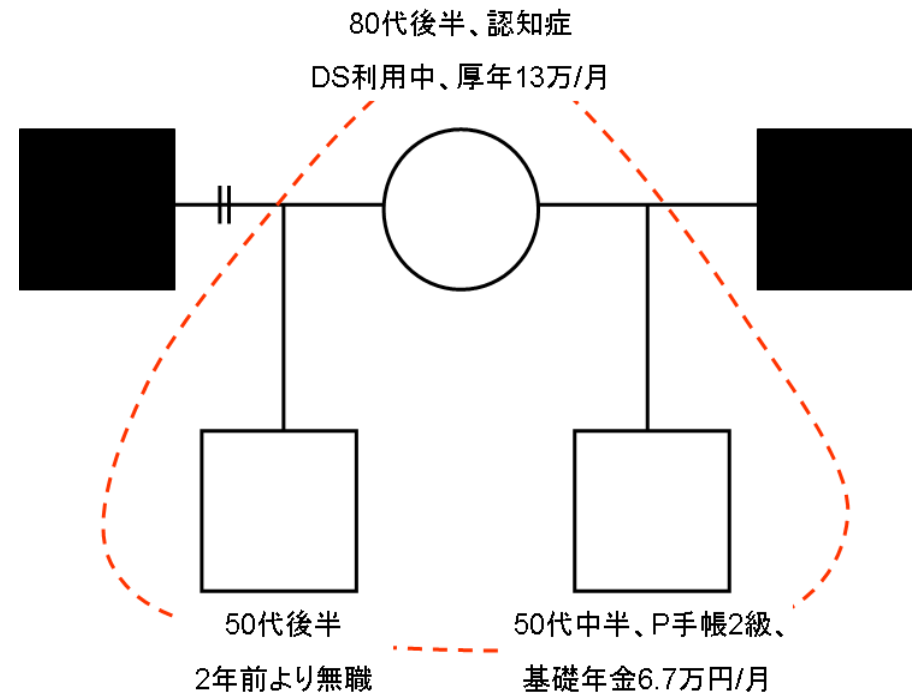
●母親のCMより電話。 「こういう事例に対応してもらえるか？」

●母親：介護度3。DS利用。料金未納。

●長男：2年前に失職。就職を勧めるが、「HWに行ってもみつからない」と。母親の年金を無心してフィリピンパブやパチンコに行っている。

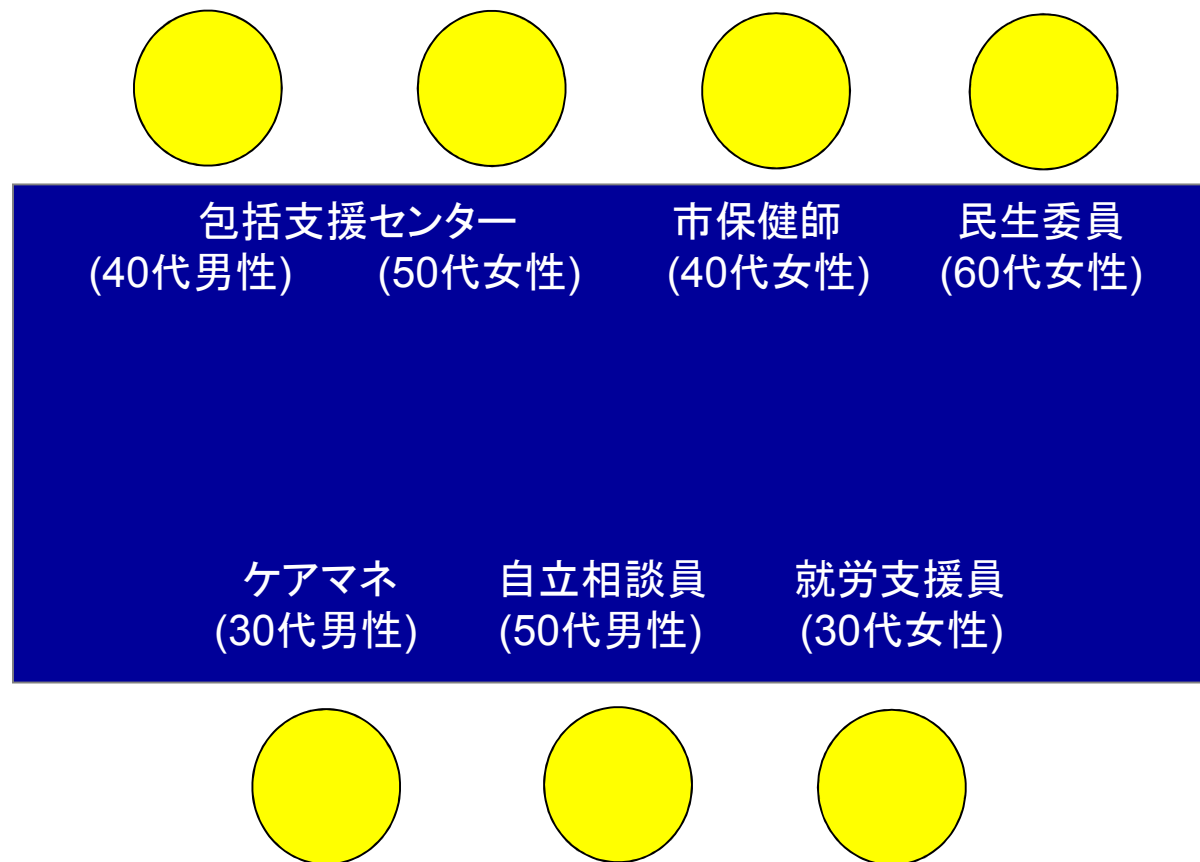
●次男：精神障害あり(うつ病?)
障害Sを利用していたが、現在は中断。
体調に波があり、グッタリしていることが多い。

●長男の就労支援と次男の対応(サービス利用の意思なし)について困っている。



経過-1 ケア会議の開催

関係者を集めてケア会議を行うことになった。



Q-1: あなたは事例に関する情報収集とともに、何を観察しますか？

経過-1 ケア会議の開催 ワーク①

●観察ポイントを簡潔に書き出してください。

▪(例)このCM、よくしゃべる...

▪

▪

▪

▪

▪

●自立相談支援機関として、このチームに提案できることは？

▪

▪

経過-1: 観察と記録のポイント ケア会議の開催

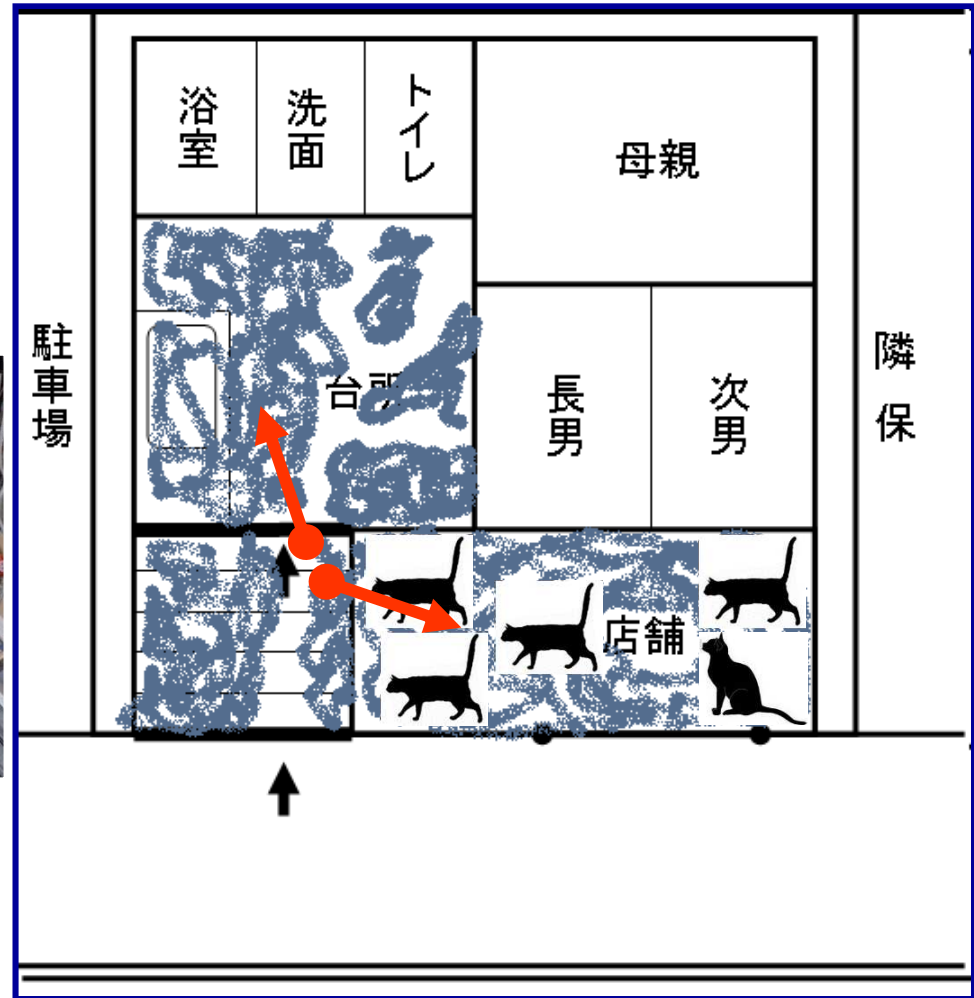
- ①誰がどんな情報を持っているか…
- ②事例に好意的な人とそうでない人は…
- ③このチームのリーダーは…
- ④「このチーム」が求めていることは…
- ⑤「近隣住民」が求めていることは…
- ⑥「事例」が求めていることは…
- ⑦自分達にできることは…
- ⑧事例との1stコンタクトの手法は…

◆◆観察の対象は、「事例」だけではない◆◆

-----チームは事例に最も近い社会資源-----

- A. チームの力動や個々のメンバーも観察対象(その逆も) ①②③
- B. 地域情報も有力 ⑤
- C. チームにどうコミットできるか ⑦⑧
- D. チームのニーズと事例のニーズにズレはないか ④⑥

経過-2 家庭訪問に同行



Q-2: 家庭訪問で、あなたは何を観察しますか？

経過-2 家庭訪問に同行 ワーク②

●観察ポイントを簡潔に書き出してください。

-
-
-
-
-
-

●支援のきっかけとなる「具体的な提案」をお願いします。

-
-

経過-2: 観察と記録のポイント 家庭訪問

- ①どんな地域か…
- ②近所づきあいはあるか…
- ③室内の環境は…
- ④生活感(ライフライン等)は…
- ⑤母・長男・次男の能力
(日常生活技能、社会生活技能、課題解決力等)
- ⑥本人達の「困り感」
- ⑦支援のきっかけとなる具体的な案件
- ⑧解決への動機付けと受入れ

◆◆観察の3領域と、リスクの時間評価◆◆

- 3領域
 - A. バイオ: 医療的・身体的側面 ③ ④
 - B. サイコ: 心理・精神的側面 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
 - C. ソーシャル: 社会的側面 ① ②
- 3リスク
 - 過去: 30日、90日、1年以内? 生涯を通じて?
 - 現在: 現在も継続しているか
 - 未来: いつまで続くか リスク悪化(解決)の見通しの有無

経過-3 同行支援 長男と区役所へ

督促状を手に「他にもありそうですか？」と尋ねる。

「たぶんある。役所に行くと、いろいろいわれるので解らなくなる」とのこと。

同行支援を提案。

●国保・住民税・公共料金(電気・ガス・水)の窓口を一緒に回り、状況を把握。

⇒国保料:減額申請手続き

⇒住民税:滞納額確認。「年内に返済計画を…」と。

⇒電気・ガス・水道:滞納状態が慢性化。母親の年金で支払う。

●職歴聴取

・中卒後の就職期間:最短で2年。最長で9年。

・離職～就職の空期間は少ない。知人の紹介や求人情報誌で探す。

・病気による休職は2回のみ。

Q-3:同行支援で、あなたは何を観察しますか？

経過-3 同行支援 ワーク③

●観察ポイントを簡潔に書き出してください。

-
-
-
-
-
-

●ここまでの観察をもとに、「支援の道筋」を提案してください。

-
-

経過3: 観察と記録のポイント 同行支援

- ①身なり(整容)は…
- ②読み・書きの程度は…
- ③対応の仕方(あいさつ・礼節・理解度等)
- ④利就職パターン(仕事or対人関係)
- ⑤職業選択の方法と妥当性
- ⑥就労意欲
- ⑦「働くこと」のイメージ
- ⑧「その先」の人生設計

◆◆観察のフォーカスを絞り込む◆◆

(本人の能力に焦点化)

●日常生活能力:①②③④

掃除、選択、炊事、入浴、整容、金銭管理、整理整頓、家計のやり繰り…

●社会生活能力:③④⑤⑥⑦⑧

挨拶習慣、礼節、TPO、公私の分別、SOS発信、公的手続き、近所付き合い

●特技や長所:

本人の興味、関心、特技、趣味、人となり、好感の持てる点、すごい! 点

経過-4 支援調整会議 事例概要①

1.基本情報：氏 名：●●●●様 年齢：50歳代後半 性別：男性
住 所：▲▲▲

2.主訴：仕事を探しているが見つからない。公共料金等の滞納あり、支払いが滞っている。

3.経 過

- ①本人の母親のCMより「母親の年金を無心している長男がいる。仕事をするよう促しているが、全く仕事をする気がない様子」と連絡あり。関係者が集まりケア会議を行い世帯の概要を把握する。
- ②多問題家族：認知症の母親、精神障害の次男（無職）、猫が十数匹、ごみ屋敷状態
- ③本人の職歴：中卒後に工場関係の仕事に就き9年務め退職。その後、5-6か所の職場を転々とするが、50歳の時に疾患により入院。退院後、職場に復帰するが50代半ばで左足にしびれが出たため退職。以降、仕事をしていない。
- ④公共料金等滞納あり。本人は「一人では何が何だかわからない」とのこと。翌週に区役所同行し住民税等の把握を行う。
- ⑤就労状況：中卒後の就職期間：最短で2年。最長で9年。離職～就職の空期間は少いHWにはいっているが、「この年齢だとなかなか見つからない」とのこと。

4.身体状況

- ①脊椎側弯症：腰椎の矯正術施行。②腰痛ヘルニア：術後症状は軽快し症状の再燃なし。
- ③左腸骨に軽い痛みがあるが日常生活に支障はない。その他、就職に支障をきたす身体症状なし。

経過-4 支援調整会議 事例概要②

5. 家族状況

家族：母、長男、次男の三人暮らし。

母親：元看護師。最初の夫との間に長男を授かる。数年で離婚して再婚。次男を授かる。

長男：中卒後すぐに就職、職歴聴取によると仕事にはまじめに取り組んできた様子。

次男：精神障害あり。通院しているが「過鎮静の状態」と保健師より。服薬量の再調整が必要か。

家屋：父親が存命のころは店を営んでいたが、廃業後より徐々に生活が乱れ、家屋内はゴミが山積みしている。猫が十数匹いる。

6. 経済状況

①収支：収入：母親の老齢厚生年金（10万円/月）＋三男の障害基礎年金（67,000円/月）
【収入計】167,000円

②支出：2015年8月13日現在の未納分合計（住民税：14万円弱、固定資産税：20万円弱、上下水道：45,000円、国保料：67,600円、ガス代：7600円）
【支出計】40万円弱

7. 支援プラン

自立相談：

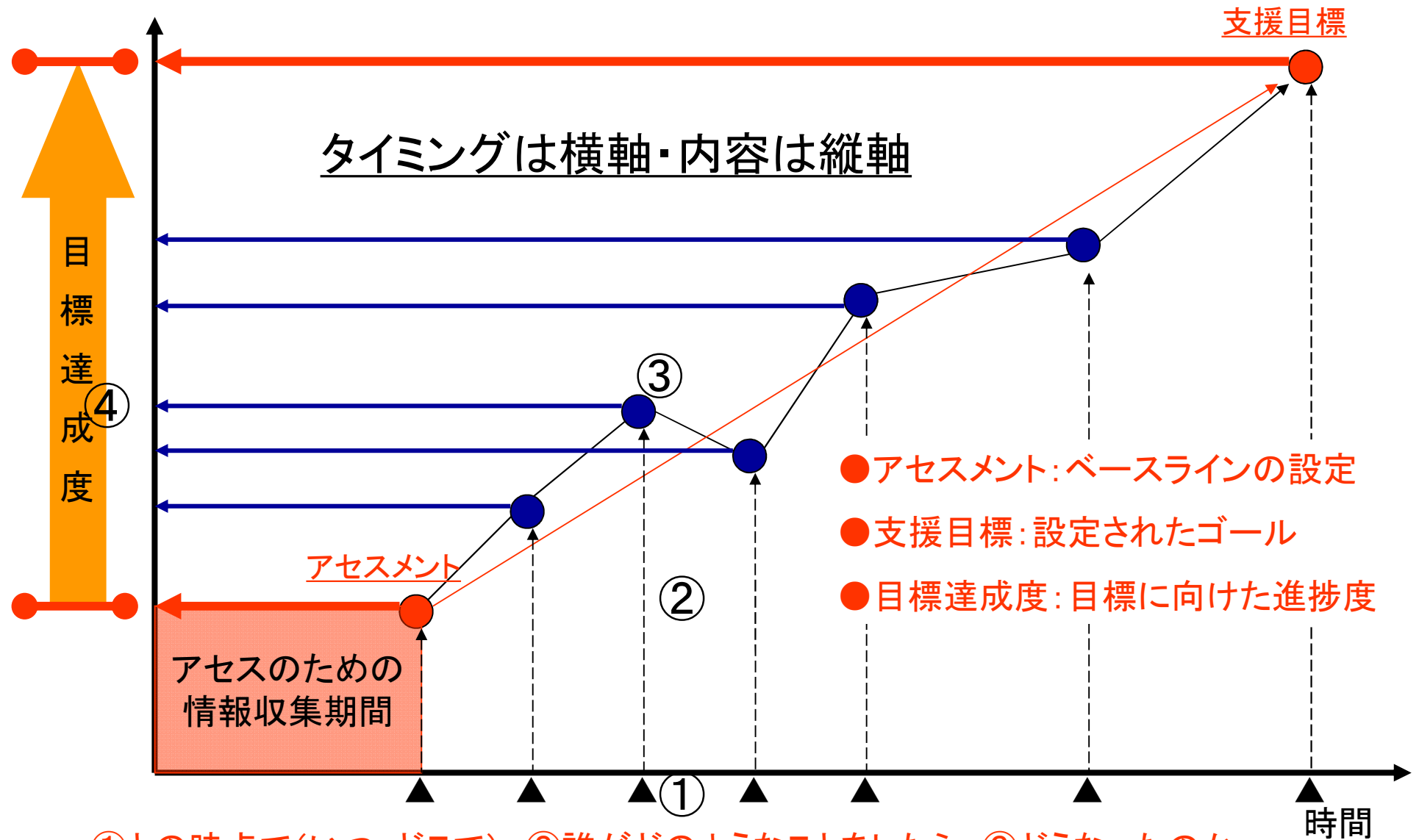
①家計支援：（i）世帯全体の公共料金の滞納状況把握、（ii）計画的な返済計画の立案と返済実行

②就労支援：（i）本人の職業能力把握、（ii）就職可能な求人票の選択⇒就職、（iii）職場定着支援

経過-4 支援調整会議 ケアプラン

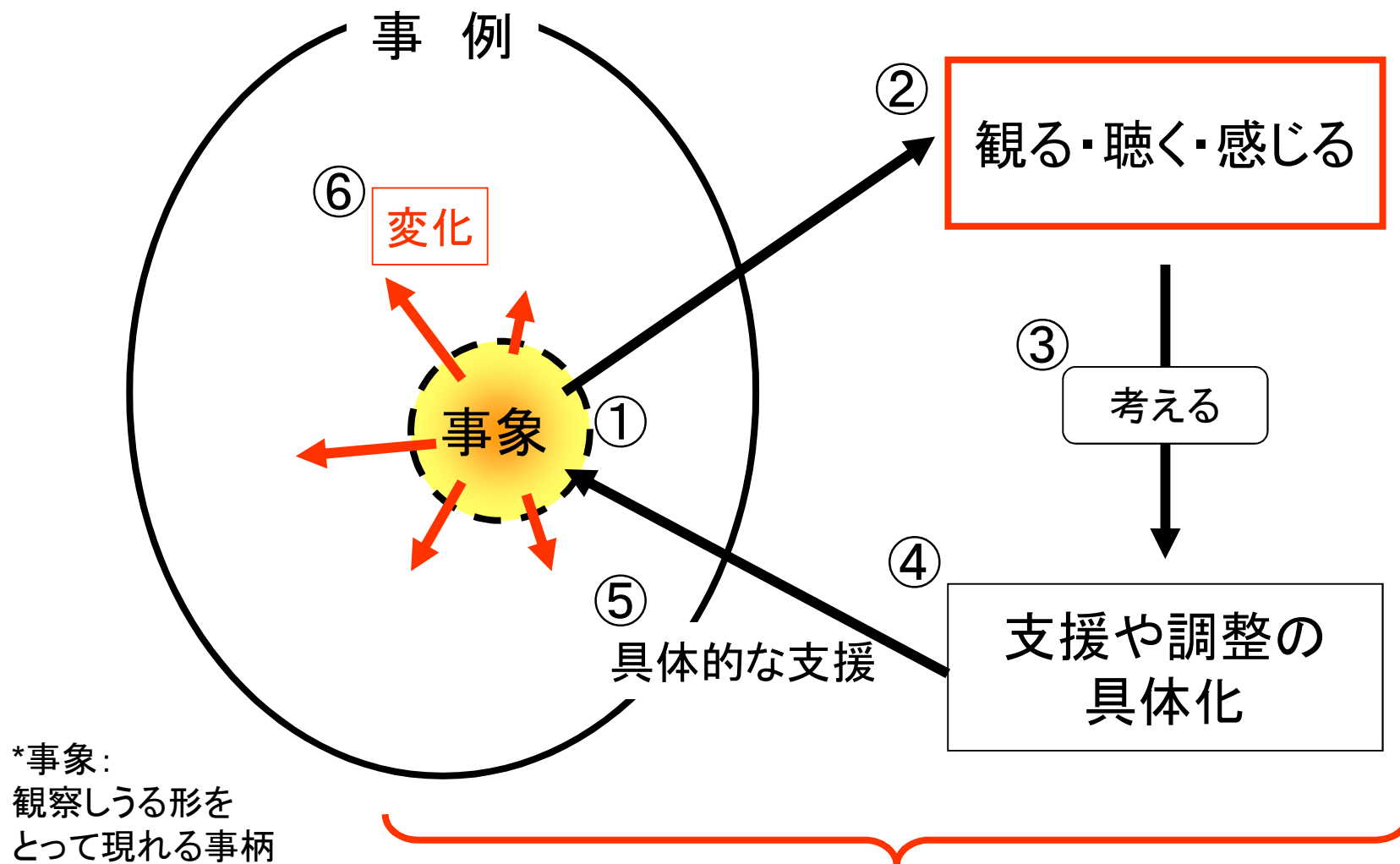
自立相談支援個別計画書					
本人氏名	●● ●●	様	作成日	平成27年 ●月●日	プラン作成者 支援センター つながり(印)
◎支援目標と担当者					
総合的な援助方針		当該世帯の生活再建			
	支援目標	支援内容	事業者名 担当者	中間評価(平成 年 月 日) 実施回数	帰結
相談 就労 就労 準備 学習 住居	滞納状況を把握し、収支バランスを考えた支払い計画を立てる。	①収納対策課に同行し、住民税滞納分を把握し、適切な返済計画を立てる。 ②上下水道課へ同行し、滞納分の把握および返済計画を立てる。	相談支援員 本人 住民課 収納対策課 上下水道課	本人	継続 終結 修正 保留 追加
				支援者	
相談 就労 就労 準備 学習 住居	本人の能力に見合う職種を選定して就職する。	①職歴を聴取して本人の職業能力を把握する。 ②求人票を提示し、職業選択の傾向を把握する。 ③求職活動支援・職場定着支援を行う。	就労支援員 本人 ハローワーク	本人	継続 終結 修正 保留 追加
				支援者	
相談 就労 就労 準備 学習 住居	次男の社会復帰の可能性について検討する	①兄に対する支援を具体的に提示しながら、本人のサービス受入を刺激する。 ②変動する病状の傾向を聴取して主治医に伝達する。 ③内服薬調整の依頼およびサービス利用に関する主治医の見解を求める。	相談支援員 保健師 開業医	本人	継続 終結 修正 保留 追加
				支援者	

「観察」と「記録」のまとめ ①基本的な考え方



- ①との時点で(いつ・どこで)、②誰がどのようなことをしたら、③どうなったのか、
④ベースラインからどの程度進み、ゴールにどの程度近づいたのか...の順番

「観察」と「記録」のまとめ ②視点と思考の流れ



記録：伝える必要のある事柄を書きしるす行為

(①事象を特定⇒②観察⇒③思考⇒④支援(調整)の段取り⇒⑤具体的支援⇒⑥変化)

「観察」と「記録」のまとめ ③多元的な意味

- ①情報選択的:「取り込み(観察)」と「出力(記録)」
- ②仮説検証的:「ある情報⇒推理＋仮説＋検証＋足跡」のループ
- ③目標志向的:ベースライン＋進捗状況＋達成目標
- ④他読前提的(明瞭簡潔的):「自分が観た・書いた情報は他者が読む」前提
- ⑤品質保証的(説明責任):支援の内容は「記録」によって「証拠」となる
- ⑥安全配慮的:記録は専門家としての「安全配慮と対応」をした根拠
- ⑦即時備忘的・証拠保全的:忘れる前に提供した支援を(振返り)残す

●臨床的には:エビデンスの蓄積 ⇒ Standard of Care

●社会的には:専門職性の形成 ⇒ 社会的使命 ⇒ 債務不履行の回避

1日目の講義はすべて終了です。

大変お疲れさまでした!!